

②全国ネットワーク会議

十月十一日、パナソニックセンター(東京)において、全国ネットワーク会議と「これからの滞在施設を考える」と題した一般向けのパネルディスカッションが開かれ、パネリストとして参加しました。

広報・助成金・寄贈品

平成十六年度、北海道ファミリーハウスに寄せられた助成金、寄付金、寄贈は左記の通りです。

- ①寄付・助成金
  - 札幌信用金庫社会福祉基金様：七万円
  - 北海道共同募金会様：十万円
  - 北海道骨髄バンク推進協会様：十万円
  - 個人：二十八万五千円(安原美世子様・瀬尾百合子様・斎藤富夫様)
- ②寄贈
  - 花王(株)様 紙おむつ・洗剤
  - (株)味の素 食品・健康飲料
  - (株)電通様 タオルセット
  - 北海道骨髄バンク推進協会様 ラベルプリンター、テープラベル

■皆様の善意に心から感謝申し上げます■

皆様から頂戴しました寄付・寄贈品につきまは、ファミリーハウス運動の中で活用させて頂いております



勤労者マルチライフ支援事業顕彰受賞

二月十九日、東京において厚生労働省事業として進められている勤労者マルチライフ支援事業の平成十六年度顕彰式が開催され、実施団体(財)さわやか福祉財団・勤労者マルチライフ支援センター(堀田 力理事長)から、北海道ファミリーハウスは「ナイスパートナー賞」をいただきました。(四頁参照ください)

■平成十七年度の事業(活動)計画■

■責任ある事務局体制の確立をめざして

○役員およびボランティアの役割分担を行い円滑な事務局運営と責任ある体制をめざします。

○情報の共有化を図るため理事長・副理事長を含めたスタッフ会議を定例化します。

○利用者の対応、マスコミ等の外部からの問い合わせに対応できるよう資料の整備を図ります。

○運営体制の充実と、ボランティアの負担軽減に向けて引き続きボランティア募集に取り組みを行います。

○情報のデータベース化、資料の保存性と有効活用、情報発信および収集、電子メール確認など、パソコンシステムを活用した業務を推進します。

■将来を見据えた運動の構築をめざして

○将来的なファミリーハウス運動のあり方を見据え、滞在日数から捕らえたオーナー物件の充実とホテルの棲み分けや、自主的に運用できる借り上げファミリーハウスの実現に向けて取り組みます。

○会費の有効活用、事務処理の効率化を図りながら、将来に向けて積立金のあり方について検討します。

○財政基盤の充実と社会的認知度の向上に向けて、個人会員および法人会員拡大に取り組めます。

○助成金・寄付金の提供を受けるため情報収集を行い、内容を検討のうえ積極的に申請を行います。

○企業の社会貢献を促し、本運動への理解活動を深めるため経済団体や企業への積極的な働きかけを行います。

■オーナー・ホテル等との連携強化をめざして

○昨年度変更した受付窓口の事務局一本化で得られた利用実績、利用者ニーズ、利用者意見などを分析し、利用者の満足度向上に取り組みます。

○利用条件や物件設備(設備、料金、病院との距離、交通機関など)の把握を行い、利用者へよりきめ細かな情報提供に努めます。

○道内外に組織する同種活動との情報交換を通じて、将来のネットワーク化に向けた信頼の醸成に取り組みます。加えて、新たに活動をはじめの方へノウハウの提供を行います。

○企業が行う社会貢献の一つにファミリーハウス建設があります。その代表例はマクドナルドハウスやAFLAC(保険会社)ペアレンツハウス、道内では、ほくでんファミリーハウス寄贈事業などがあります。このような事業は社会にとっても有益なものであることから、情報収集を行い誘致活動なども検討します。

■社会的信頼と社会的評価の確立をめざして

○新聞・テレビ・ラジオ・地域コミュニティ放送などを通じた広範なPR、広報活動に積極的に取り組みます。

○会員の継続性や活動の透明性確保を図るため、定期広報誌「ファミリーハウス通信」等による情報提供を行います。

○ホームページのメンテナンスを常に行い、より有用な情報提供を行います。

○ホームページや広告物の発行等を通じて理解活動を進めます。なお、必要に応じてチラシなどの補助資料を作成します。

○本運動の五周年を記念し、書籍の寄贈や講演会等を通じてボランティア活動について理解を深める取り組みを検討します。

○社会認知度、信頼性、責任体制の明確化を図る中からNPO法人化に向けて検討を進めます。